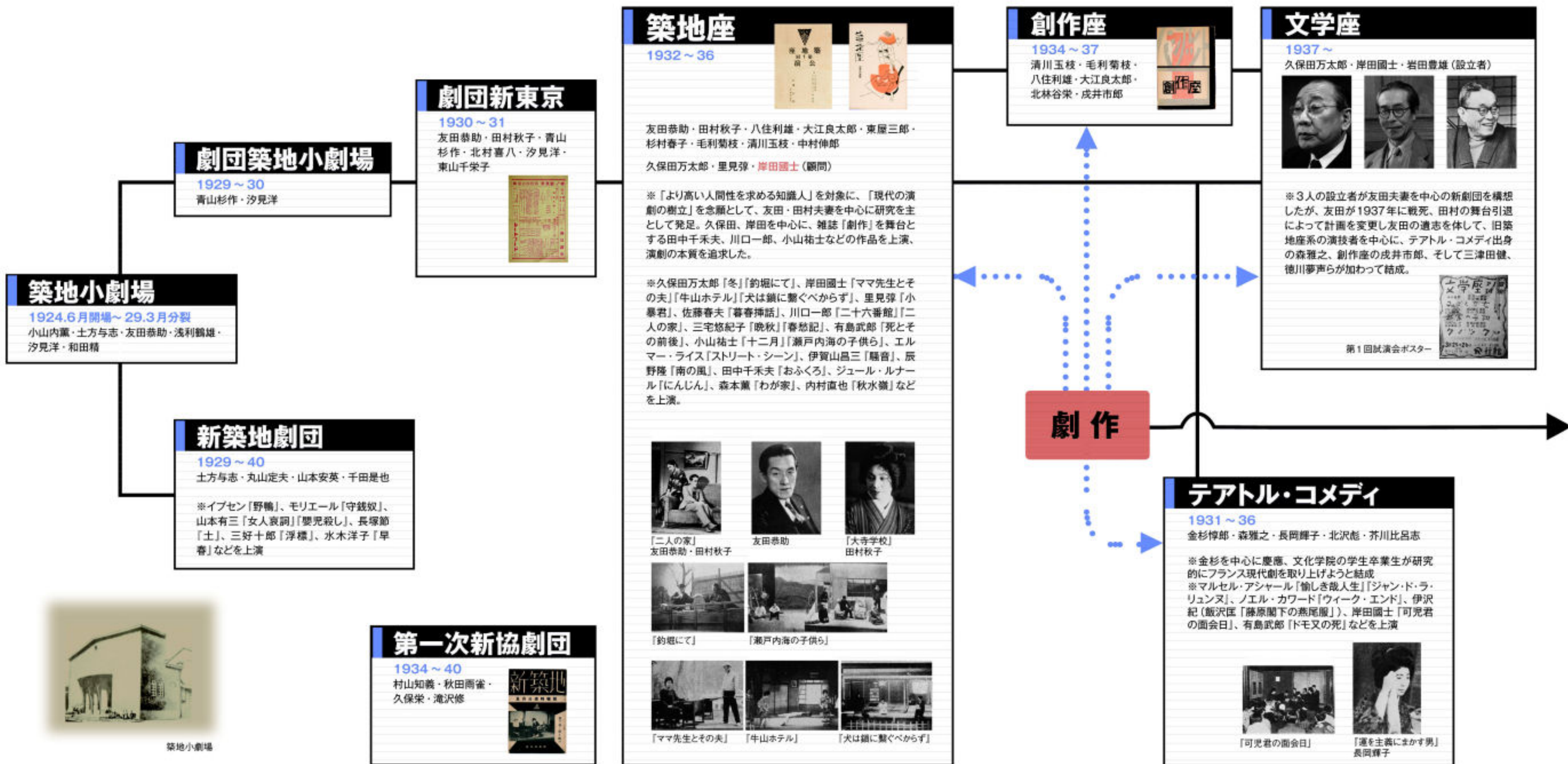


岸田國士と、築地座、劇作派



劇団築地小劇場
1929～30
青山杉作・汐見洋

築地小劇場
1924.6月開場～29.3月分裂
小山内薫・土方与志・友田恭助・浅利鶴雄・汐見洋・和田精

新築地劇団
1929～40
土方与志・丸山定夫・山本安英・千田是也
※イブセン「野鶴」、モリエール「守銭奴」、山本有三「女人哀詞」「嬰兒殺し」、長塚節「土」、三好十郎「浮標」、水木洋子「早春」などを上演

劇団新東京
1930～31
友田恭助・田村秋子・青山杉作・北村喜八・汐見洋・東山千栄子

築地座
1932～36

友田恭助・田村秋子・八住利雄・大江良太郎・東屋三郎・杉村春子・毛利菊枝・清川玉枝・中村伸郎
久保田万太郎・里見弾・岸田國士(顧問)

※「より高い人間性を求める知識人」を対象に、「現代の演劇の樹立」を念願として、友田・田村夫妻を中心に研究を主として発足。久保田、岸田を中心に、雑誌「創作」を舞台とする田中千禾夫、川口一郎、小山祐士などの作品を上演、演劇の本質を追求した。

※久保田万太郎「冬」「釣堀にて」、岸田國士「ママ先生とその夫」「牛山ホテル」「犬は鎖に繋ぐべからず」、里見弾「小暴君」、佐藤春夫「暮春挿話」、川口一郎「二十六番館」「二人の家」、三宅悠紀子「晩秋」「春愁記」、有島武郎「死とその前後」、小山祐士「十二月」「瀬戸内海の子供ら」、エルマー・ライス「ストリート・シーン」、伊賀山昌三「騒音」、辰野隆「南の風」、田中千禾夫「おふくろ」、ジュール・ルナール「にんじん」、森本薫「わが家」、内村直也「秋水嶺」などを上演。



第一次新協劇団
1934～40
村山知義・秋田雨雀・久保栄・滝沢修

創作座
1934～37
清川玉枝・毛利菊枝・八住利雄・大江良太郎・北林谷栄・戌井市郎

文学座
1937～
久保田万太郎・岸田國士・岩田豊雄(設立者)



※3人の設立者が友田夫妻を中心の新劇団を構想したが、友田が1937年に戦死、田村の舞台引退によって計画を変更し友田の遺志を体して、旧築地座系の演技者を中心に、テアトル・コメディ出身の森雅之、創作座の戌井市郎、そして三津田健、徳川夢声らが加わって結成。



テアトル・コメディ
1931～36
金杉悖郎・森雅之・長岡輝子・北沢彪・芥川比呂志

※金杉を中心に慶應、文化学院の学生卒業生が研究的にフランス現代劇を取り上げようと結成
※マルセル・アシャール「愉しき哉人生」「ジャン・ド・ラ・リュンヌ」、ノエル・カワード「ウィーク・エンド」、伊沢紀(飯沢匡「藤原閣下の燕尾服」)、岸田國士「可児君の面会日」、有島武郎「ドモ又の死」などを上演



「劇作」

1932 ~ 1940



岸田國士
(1890 ~ 1954)



川口一郎
(1900 ~ 1971)
「二十六番館」
「二人の家」
「田宮のイメエジ」



田中千禾夫
(1905 ~ 1995)
「おふくろ」
「雲の涯」
「マリアの首」



伊賀山昌三
(1900 ~ 1956)
「騒音」
「むささび」
「通り魔」



内村直也 (菅原実)
(1909 ~ 1989)
「秋水嶺」
「雑木林」



阪中正夫
(1901 ~ 1958)
「馬」
「赤鬼」



金杉惇郎
(1909 ~ 1937)
演劇評論集「四季の劇場」



菅原卓
(1903 ~ 1970)
「北へ帰る」



森本薫
(1912 ~ 1946)
「華々しき一族」
「かくて、新年は」
「女の一生」

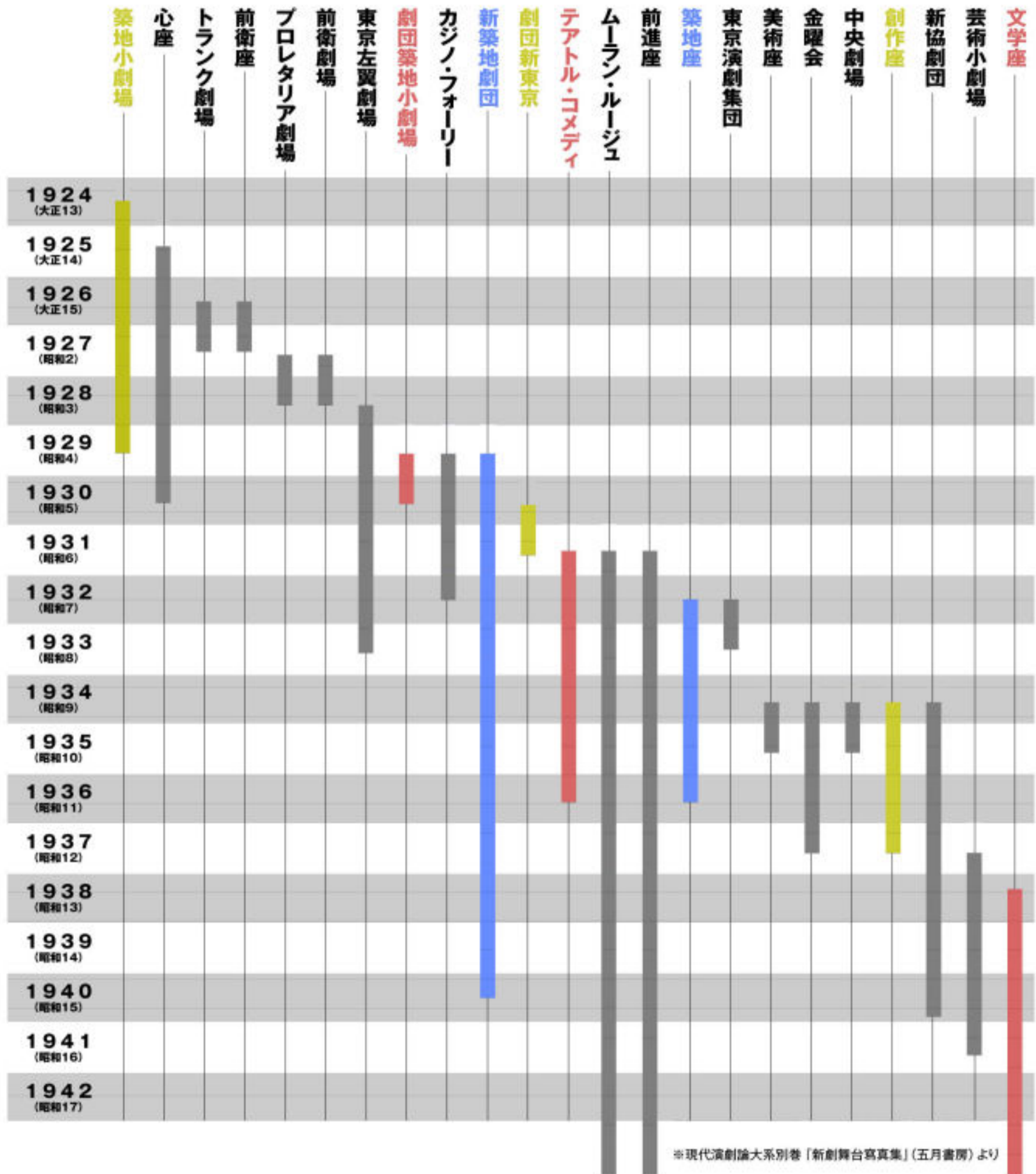


小山祐士
(1904 ~ 1982)
「十二月」
「瀬戸内海の子供ら」
「薔薇一族」

長岡輝子
(1908 ~)
「マントンにて」

※菅原卓の自宅が「劇作」の編集室となり、編集発行人も菅原卓だった。
※「劇作」「テアトル・コメディ」とともに印刷は「駿河臺印刷所」で行われ、
同印刷所は高杉惇郎の実家(家業)である。

築地小劇場以降の 主な劇団と活動期間



※現代演劇論大系別巻「新劇舞台写真集」(五月書房)より